

# 日本政府は核兵器禁止条約に いまして参加を あなたの署名がつくる核兵器のない世界

## 被災 69 年 3・1 ビキニデー集会アピール

1954年3月1日、アメリカがマーシャル諸島ビキニ環礁でおこなった水爆実験による被災から69年がたちました。私たちはいま「3・1ビキニデー集会」を4年ぶりに現地静岡で、オンラインを併用しつつ開催しています。

2021年1月22日、核兵器禁止条約が発効し、核兵器が全面的に禁止され、核兵器廃絶に向けた新しいステージが始まりました。現在、同条約の署名国は92カ国、批准国は68カ国です。昨年12月の国連総会では、核兵器禁止条約の参加を求める決議が5年連続で国連加盟国の6割を超える賛成で採択されました。

昨年6月に開かれた核兵器禁止条約第1回締約国会議は、希望ある力強い「ウィーン宣言」と「ウィーン行動計画」を採択しました。同会議にはNATO（北大西洋条約機構）加盟国のドイツ、ノルウェー、オランダ、ベルギーなどもオブザーバー参加するなど、国際政治の流れは核兵器廃絶へと大きく前進しています。

一方、ロシアによるウクライナ侵略が2年目に入り、依然として核使用の威嚇が続いています。北東アジアでは、北朝鮮の核・ミサイル開発、台湾海峡問題、尖閣諸島問題があり、軍事対軍事、核対核の危険な対応が緊張を高めています。

すべての当事国は、軍事ブロックと軍拡、核の威嚇の危険な対応をやめ、国連憲章を遵守し、国際法に基づく紛争の平和的な解決をめざすべきです。また、これまでのNPT（核不拡散条約）再検討会議で達成された核兵器廃絶の合意を誠実に履行すべきです。

その中で、日本政府がアメリカの「核の傘」にしがみつき、これまでの「専守防衛」政策も投げ捨て、「敵基地攻撃能力」（反撃能力）保有の大軍拡を推しすすめ、核兵器禁止条約に背を向けていることは日本国憲法の平和理念に反し、唯一の戦争被爆国にあるまじきことです。

日本政府は、アメリカの核戦略への依存をやめ、核兵器禁止条約に署名・批准すべきです。「日本も核兵器禁止条約に参加を」の声を大きくひろげ、さまざまな分野でたたかう人びとの連帯と共同を豊かに発展させましょう。

4年ぶりリアルで開催の3・1ビキニデーに長崎から3名の代表（県原水協、新婦人2名）が参加。27日の国際交流会議、28日は早朝からの東富士演習場のウォッチング午後は、原水協全体集会、そして分科会、3月1日は午前焼津駅から久保山愛吉さんのお墓まで「献花墓参平和行進」「墓前祭」。そして午後はビキニデー集会というハードな行動でした。「戦争か平和かの重大な岐路」の下で開かれた、2023年最初の重要な集会、海外や日本全国からの発言や報告に元気もらった集会参加となりました。今こそ、被災69年・3・1ビキニデー集会のアピールに応じて行動しましょう。

国際交流会議には112名が参加。フランス、韓国、マーシャル諸島、アメリカと日本の運動交流しました。



青空に映える富士山の裾野の演習場ウォッチング、砲撃の音が聞こえる。左下に戦車が見えた。

いまこそ核兵器禁止条約に参加する日本へ  
広島・長崎・ビキニ被災者全員救済を求めよう！  
2023年3・1ビキニデー  
長崎の被爆体験者：山本誠一  
(長崎被爆地域拡大協議会事務局長)



- 被災 69 年 3・1 ビキニデーを出発点に、草の根の行動に踏み出そう。
- ◇ロシアは直ちに武力行動を停止し、ウクライナから撤退せよ。
- ◇国連憲章にもとづく紛争の平和的解決、核兵器全面禁止を要求する世論をひろげよう。
- ◇日本政府に、「安保3文書」の撤回、戦争準備の大軍拡と大増税をやめ、憲法にもとづく平和外交を求めよう。
- ◇核兵器禁止条約の署名と批准を求める運動を大きくひろげよう。
- ◇日本政府にビキニ事件の被災の実態を認め、速やかな救済と補償を求めよう。
- ◇日本政府に原爆投下で「黒い雨」被害に遭ったすべての被害者を被爆者として認定させ、救済させよう。
- ◇被爆者の証言活動、原爆写真展を開催し、被爆の実相をひろめよう。
- ◇原発再稼働の加速、原発新增設の推進、原則40年としてきた運転期間の延長に反対し、原発からの脱却と自然エネルギーへの転換を求めよう。
- ◇気候危機打開、ジェンダー平等、格差の是正、生活を守る運動と連帯し、行動しよう。
- ◇原水爆禁止平和行進をすべての自治体につなごう。原水爆禁止2023年世界大会を成功させよう。

ノーモア・ヒロシマ、ナガサキ、ビキニ、フクシマ、  
ノーモア・ヒバクシャ、ノーモア・ウォー

2023年3月1日 被災69年3・1ビキニデー集会

被爆者援護連帯の分科会に長崎の被爆体験者 山本誠一さんがビデオで「被災者全員の救済を求めよう」報告



原水協の全体集会、940人が参加、安井事務局長の基調報告、作家の平野啓一郎さんやジャーナリストの小山美砂さんなどの連帯の挨拶、各地の運動の報告など大きく盛り上がりしました。



「献花墓参平和行進」を歩く  
長崎県の代表。